

石川四高記念文化交流館 中期経営目標

(実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月 策定

1 施設の設置目的

本県ゆかりの近現代文学及び旧制第四高等学校に関する資料の展示、文化活動の機会の提供等を行うことを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

旧制第四高等学校の歴史と伝統を伝えるほか、三文豪を始めとする本県ゆかりの作家に関する資料を収集・展示することで、石川の学术交流が盛んな風土や文学的・芸術的風土を全国に発信するとともに、旧制第四高等学校の教室を県民に学習や発表の場として提供することにより、金沢市中心部の賑わいの創出に寄与することを役割としています。

3 事業内容

(1) 石川四高記念館

① 展示活動

来館者に旧制第四高等学校の歴史と伝統について知っていただくため、歴史や部活動、学生生活等のテーマ別に、当時使われていた制服や応援団の太鼓を始め、様々な四高関係資料の展示を行っています。

② 普及活動

県民に四高や四高生を育んだ風土や時代を学んでいただくため、四高同窓会、金沢大学との連携により、四高ゆかりの方々を講師に迎え、公開講座『フレッシュ新三々塾』などを開催しています。

③ 貸館事業の運営

県民の句会や絵画教室、各種講座等の学習や発表の場や、大学コンソーシアム石川の活動の場として多目的利用室（5室）の貸出しをしています。

(2) 石川近代文学館

① 展示活動

来館者に加賀百万石が生んだ文学的風土を知っていただくため、本県ゆかりの文学者の著書、原稿、愛蔵品を幅広く展示する常設展のほか、関心の高いテーマを設定し、関連の文学資料を展示、紹介する企画展を開催しています。

②普及活動

県民の文学に関する関心を高めるため、本県ゆかりの作品を中心とした朗読会や、企画展にちなんだ講演会等を開催しています。

③収集・保存活動

本県ゆかりの文学者の作品等を収集・保存を行うことにより、資料の散逸を防ぎ、その業績を後世に伝えるとともに、県内外の文学愛好者や研究者に提供しています。

4 現状と課題

(1)施設の利用促進について

①四高記念館

金沢大学との連携により、当時の写真を始め様々な四高関係資料の展示を行うほか、四高記念館ゾーンを無料にしていることなどにより、入館者は増加傾向にあり、平成28年度は約20万人に及ぶ、多くの方々に利用されています。引き続き、多くの方に来館いただけるよう、広報活動の強化に努める必要があります。

また、多目的利用室については、大学コンソーシアム石川とも連携し、サテライト教室・一般公開講座等での利用を進めているほか、文化団体に対して利用案内を送付するなどの働きかけを行っており、平成28年度の利用回数は1,562回となっています。今後は、さらなる利用の促進に向け、広報活動の強化に努める必要があります。

②石川近代文学館

幅広い年齢層に応じた企画展示、年4回の常設展の展示替え、金沢市三文豪館と連携したスタンプラリーなどのほか、県内施設へのパンフレット、チラシの配布等の広報活動を行ってきたところですが、リニューアル以降、入館者は減少傾向にありました。しかし、広報活動の成果もあり、平成28年度には23,103人に増加しており、引き続き、利用者の確保に向け、魅力ある展示の企画や、広報活動の強化に努める必要があります。

(2)サービス(満足度)向上について

開館当初から「意見箱」を設置し、館に対する意見を自由に記入していただき、館の運営の参考としてきたほか、平成21年度からアンケートを実施し、利用者ニーズを踏まえ、ミュージアムグッズの充実等を行ってきたところ、平成28年度の館全体の満足度は92%となっています。今後とも、利用者の意見をお聞きしながら、サービス向上に努力していくこととしています。

参考資料

1 施設の利用状況

区分	H26	H27	H28
入館者数	167,912 人	184,858 人	199,458 人
うち近代文学館	18,161 人	22,964 人	23,103 人
「フレッシュ新三々塾」参加者数	172 人	142 人	146 人
近代文学館企画展来場者数	14,971 人	19,356 人	18,981 人
朗読会来場者数	1,273 人	713 人	566 人
多目的利用室利用回数	980 回	1,025 回	761 回
多目的利用室稼働率	55%	57%	52%

2 利用者アンケート指標(利用者サービス、施設の維持管理) (単位:%)

項目	H26	H27	H28
良い	44	57	59
概ね良い	51	36	33
計	95	93	92
やや悪い	5	6	5
悪い	0	1	3

3 収支の状況 (単位:千円)

		H26決算	H27決算	H28決算
歳出	管理運営費	27,314	28,088	28,514
	職員費	22,399	22,807	23,923
	四高記念館事業費	146	241	243
	近代文学館事業費	15,404	12,392	12,535
	計	65,263	63,528	65,215
歳入	使用料収入	3,552	4,231	3,237
	財産売払収入	254	1,285	389
	その他	252	294	295
	一般財源	61,205	57,718	61,294
	計	65,263	63,528	65,215

②石川近代文学館

- ・文学界の動向を踏まえた企画をはじめ、各世代のニーズを捉えた、話題性のある展示に努めます。
- ・現在好評をいただいている朗読会については、開催回数を増やし、初めての方にも興味を持っていただけるような演出を工夫するほか、著名人による朗読会を企画するなど、内容の充実に努めます。
- ・県外客の利用促進を図るため、従来広報活動を行ってこなかった旅行代理店等への広報活動を展開します。

(2) サービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・引き続き意見箱への意見やアンケートを通じ、来館者からのニーズの把握に努めるとともに、職員の接遇向上をはじめとしたサービスの向上に努めます。

(3) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・民間委託業務の点検、見直しを行うなど、引き続き、経費節減や施設運営の効率化に努めます。

(3) 施設運営の効率化について

平成20年度のリニューアル時より、窓口案内業務、清掃、警備等について民間委託を導入するなど、経費節減に取り組んできたところであり、今後とも、経費の節減など、施設運営の効率化に努めていくこととしています。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- ① 年間入館者を5年間で8%増加させます。
- ② 近代文学館の年間利用者数を5年間で15%増加させます。
- ③ 利用者アンケートによる満足度を95%以上に引き上げ維持します。
- ④ 利用者一人あたりの一般財源投入額を5年間で8%削減します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標	H28実績値 (H26~28の平均)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 入館者数(人)	184,076	192,500	200,000
② 近代文学館の入館者 (人)	21,409	23,000	25,000
③ 利用者アンケートに よる満足度(%)	93	95以上	95以上
④ 利用者一人あたりの 一般財源投入額(円)	200	192	185

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進に向けた取り組み

① 石川四高記念館

- ・県内の小中学校への広報活動については、訪問範囲を広げ、より多くの学校に利用いただけるよう努めます。
- ・県内の文化団体等に対し、多目的利用室の利用を働きかけるため、パンフレットを送付する等、取り組みを行ってききましたが、今後は文化団体等に直接出向き、さらなるPR活動の実施を図ります。

4 利用者1人あたりの一般財源投入額

	H26	H27	H28
一般財源投入額 ①	61,205 千円	57,718 千円	61,294 千円
職員費を除いた額 ①'	38,806 千円	34,911 千円	37,371 千円
利用者数 ②	167,912 人	187,385 人	199,458 人
利用者1人あたりの一般財源 投入額 ①÷②	365 円	308 円	307 円
職員費を除いた額 ①'÷②	231 円	186 円	187 円